

平成28年産大豆、小豆、いんげん及びらっかせい（乾燥子実）の収穫量 － 大豆、小豆及びいんげんの収穫量は前年産に比べ減少 －

【調査結果の概要】

1 大豆

全国の大豆の収穫量は23万5,500 tで、前年産に比べ7,600 t（3%）減少した。

2 小豆

全国の小豆の収穫量は2万9,500 tで、前年産に比べ3万4,200 t（54%）減少した。これは、主産地である北海道において、作付面積及び10 a 当たり収量が前年産を下回ったためである。

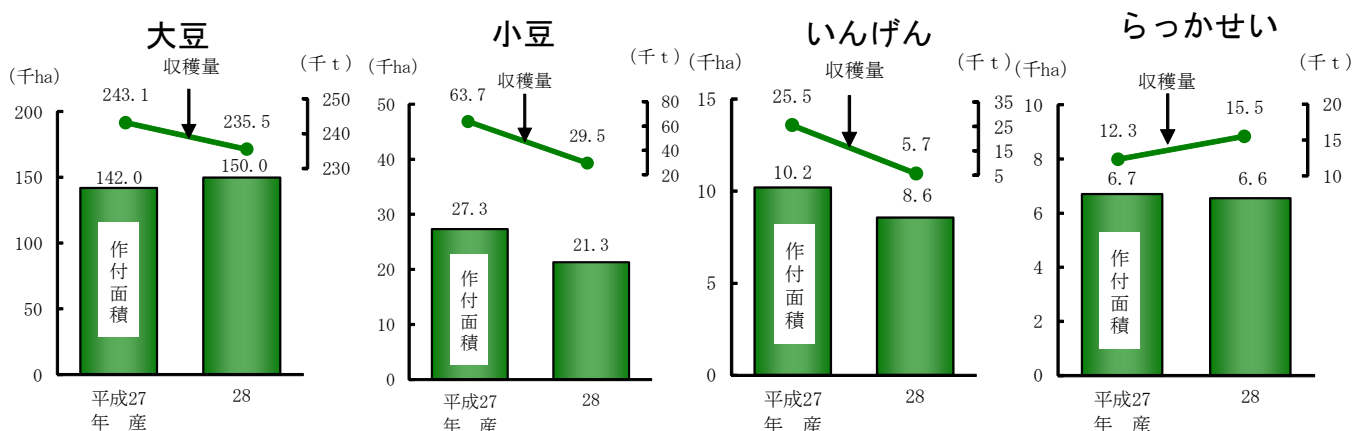
3 いんげん

全国のいんげんの収穫量は5,650 tで、前年産に比べ1万9,900 t（78%）減少した。これは、主産地である北海道において、作付面積及び10 a 当たり収量が前年産を下回ったためである。

4 らっかせい

全国のらっかせいの収穫量は1万5,500 tで、前年産に比べ3,200 t（26%）増加した。これは、作付面積が前年産を下回ったものの、10 a 当たり収量が前年産を上回ったためである。

図1 大豆、小豆、いんげん及びらっかせいの作付面積及び収穫量の前年産との比較



注： 本調査は各作物の「乾燥子実」を対象に調査している。
「乾燥子実」とは、食用を目的に未成熟（完熟期以前）で収穫されるもの（えだまめ、さやいんげん等）を除いたものをいう。なお、らっかせいはさやつきのものをいう。

本資料は、農林水産省ホームページの「統計情報」から御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

◎ 調査結果の主な利活用

- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 大豆、小豆、いんげん及びらっかせいに関する生産振興に資する各種事業（強い農業づくり交付金等）の推進のための資料
- ・ 農業災害補償法（昭和22年法律第185号）に基づく共済事業の適切な運営のための資料
- ・ 小豆、いんげん及びらっかせいの関税割当数量の算定のための資料
- ・ 経営所得安定対策（畑作物の直接支払交付金）の交付単価の算定等のための資料

◎ 累年データ

大豆、小豆、いんげん及びらっかせい（乾燥子実）の
作付面積、10a当たり収量及び収穫量の推移

1 大豆

区分	作付面積	10a当たり 収量	収穫量
	ha	kg	t
平成19年産	138,300	164	226,700
20	147,100	178	261,700
21	145,400	158	229,900
22	137,700	162	222,500
23	136,700	160	218,800
24	131,100	180	235,900
25	128,800	155	199,900
26	131,600	176	231,800
27	142,000	171	243,100
28（概数）	150,000	157	235,500

2 小豆

区分	作付面積	10a当たり 収量	収穫量
	ha	kg	t
平成19年産	32,700	201	65,600
20	32,100	216	69,300
21	31,700	167	52,800
22	30,700	179	54,900
23	30,600	196	60,000
24	30,700	222	68,200
25	32,300	211	68,000
26	32,000	240	76,800
27	27,300	233	63,700
28（概数）	21,300	138	29,500

資料：農林水産省統計部『作物統計』
（2、3及び4の統計表において同じ。）

3 いんげん

区分	作付面積	10a当たり 収量	収穫量
	ha	kg	t
平成19年産	10,400	211	21,900
20	10,900	225	24,500
21	11,200	142	15,900
22	11,600	190	22,000
23	10,200	97	9,870
24	9,650	187	18,000
25	9,120	168	15,300
26	9,260	221	20,500
27	10,200	250	25,500
28（概数）	8,560	66	5,650

4 らっかせい

区分	作付面積	10a当たり 収量	収穫量
	ha	kg	t
平成19年産	8,310	226	18,800
20	8,070	240	19,400
21	7,870	258	20,300
22	7,720	210	16,200
23	7,440	273	20,300
24	7,180	241	17,300
25	6,970	232	16,200
26	6,840	235	16,100
27	6,700	184	12,300
28（概数）	6,550	237	15,500

【調査結果】

1 大豆（乾燥子実）（統計表 8 ページ参照）

(1) 作付面積

大豆の作付面積は15万haで、前年産に比べ8,000ha（6%）増加した。

これは、水稻、小豆等からの転換があったためである。

(2) 10a 当たり収量

大豆の10a 当たり収量は157kgで、前年産に比べ8%下回った。

これは、北海道等において天候不順の影響により生育が抑制されたこと等による。

(3) 収穫量

大豆の収穫量は23万5,500tで、前年産に比べ7,600t（3%）減少した。

なお、都道府県別の収穫量割合は、北海道が35%、宮城県が8%、秋田県が5%となっており、この3県で全国の5割を占めている。

図2 大豆の作付面積及び収穫量の推移

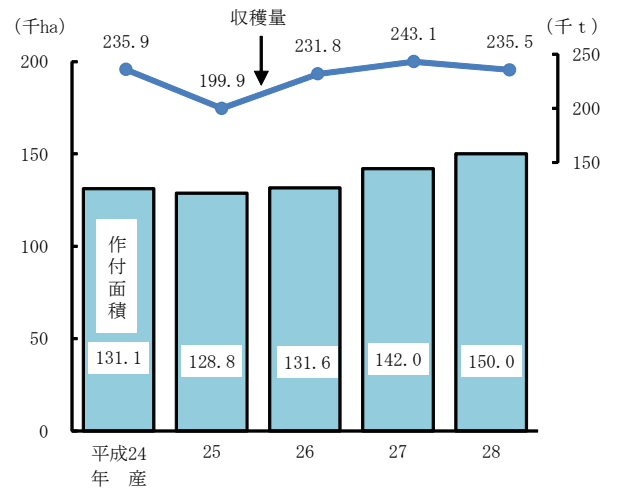
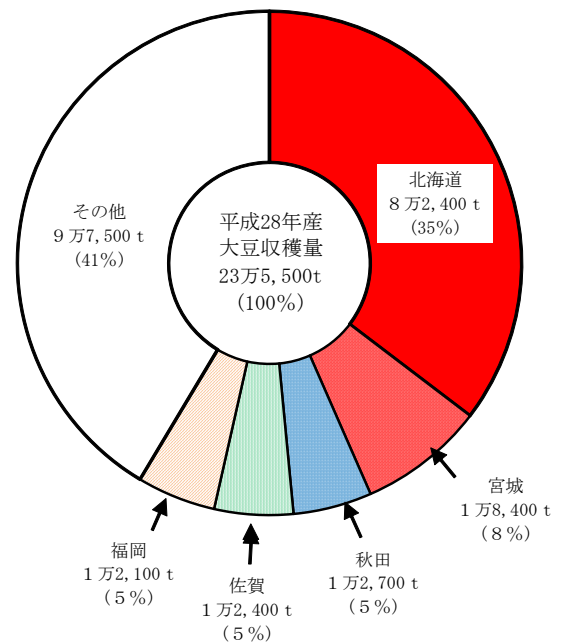


図3 平成28年産大豆の都道府県別収穫量及び割合



注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある（以下同じ。）。

表1 平成28年産大豆（乾燥子実）の作付面積、10a 当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10a 当たり収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付面積		10a 当たり収量	収穫量		10a 当たり平均収量対比	10a 当たり平均収量	
				対差	対比	対比	対差	対比			
全国	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
全	150,000	157	235,500	8,000	106	92	△ 7,600	97	91	173	
うち北海道	40,200	205	82,400	6,300	119	81	△ 3,500	96	86	239	

注：「(参考) 10a 当たり平均収量対比」とは、10a 当たり平均収量（原則として直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値）に対する当年産の10a 当たり収量の比率である（以下各統計表において同じ。）。

2 小豆（乾燥子実）（統計表9ページ参照）

(1) 作付面積

小豆の作付面積は2万1,300haで、前年産に比べ6,000ha（22%）減少した。

これは、主産地である北海道において大豆への転換等があったためである。

(2) 10a当たり収量

小豆の10a当たり収量は138kgで、前年産に比べ41%下回った。

これは、主産地である北海道において天候不順による影響と台風等による被害により生育が抑制されたことに加え、被害粒が多く発生したためである。

(3) 収穫量

小豆の収穫量は2万9,500tで、前年産に比べ3万4,200t（54%）減少した。

これは、作付面積及び10a当たり収量が前年産を下回ったためである。

図4 小豆の作付面積及び収穫量の推移

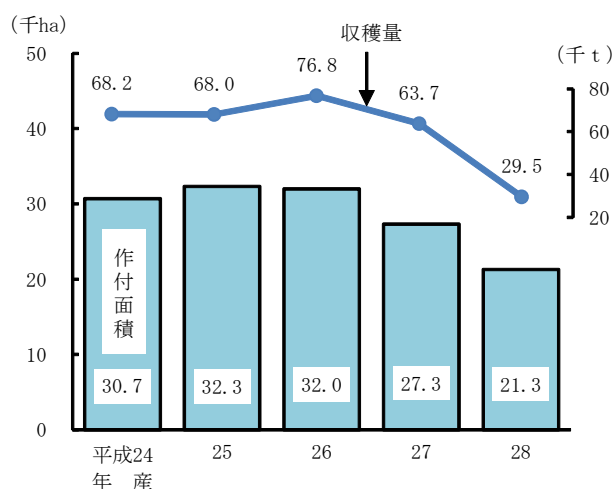


図5 平成28年産小豆の都道府県別収穫量及び割合

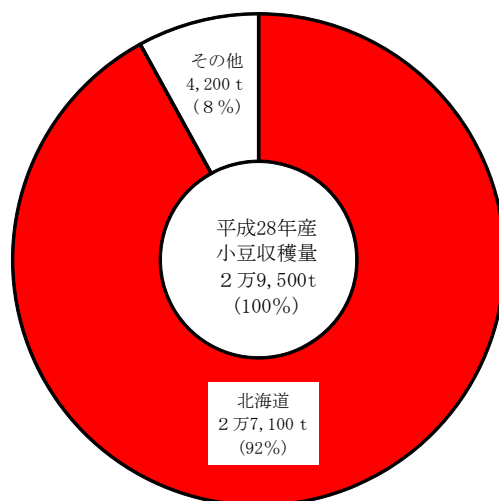


表2 平成28年産小豆（乾燥子実）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付面積		10a 当たり 収量	収穫量		10a当たり 平均収量 対比	10a当たり 平均収量	
				対差	対比	対比	対差	対比			
ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg		
全 国	21,300	138	29,500	△ 6,000	78	59	△ 34,200	46	nc	...	
うち北海道	16,200	167	27,100	△ 5,700	74	61	△ 32,400	46	69	242	

3 いんげん（乾燥子実）（統計表9ページ参照） 図6 いんげんの作付面積及び収穫量の推移

(1) 作付面積

いんげんの作付面積は8,560haで、前年産に比べ1,640ha（16%）減少した。

これは、主産地である北海道において大豆等への転換等があったためである。

(2) 10a当たり収量

いんげんの10a当たり収量は66kgで、前年産に比べ74%下回った。

これは、主産地である北海道において天候不順による影響と台風等による被害により生育が抑制されたことに加え、着色不良等の被害粒が多く発生したためである。

(3) 収穫量

いんげんの収穫量は5,650tで、前年産に比べ1万9,900t（78%）減少した。

これは、作付面積及び10a当たり収量が前年産を下回ったためである。

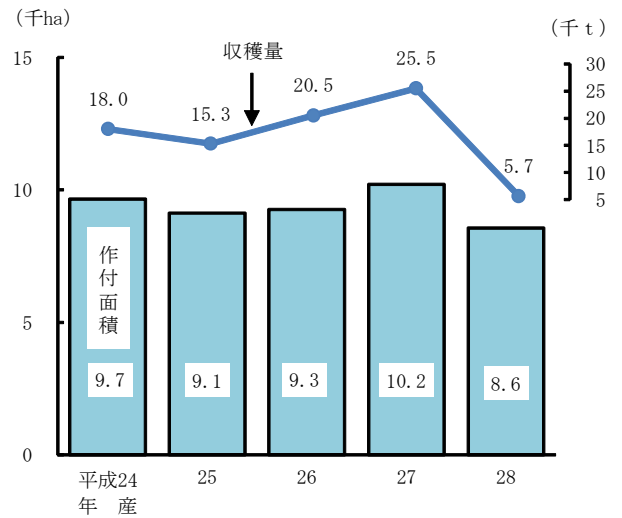


図7 平成28年産いんげんの都道府県別収穫量及び割合

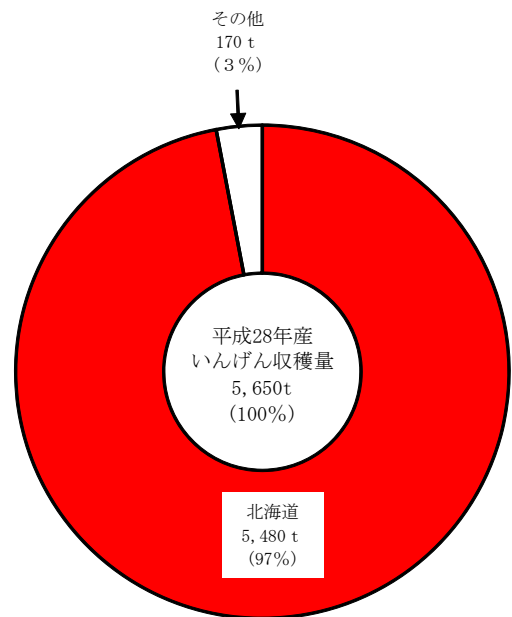


表3 平成28年産いんげん（乾燥子実）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付面積		10a 当たり 収量	収穫量		10a当たり 平均収量 対比	10a当たり 平均収量	
				対差	対比	対比	対差	対比			
全 国	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
うち北海道	8,560	66	5,650	△ 1,640	84	26	△ 19,900	22	nc	...	
	7,940	69	5,480	△ 1,610	83	27	△ 19,300	22	37	187	

4 らっかせい（乾燥子実）
（統計表9ページ参照）

(1) 作付面積

らっかせいの作付面積は6,550haで、前年産に比べ150ha（2%）減少した。

(2) 10a当たり収量

らっかせいの10a当たり収量は237kgで、前年産に比べ29%上回った。

これは、主産地である千葉県において、おおむね天候に恵まれたことから、作柄の悪かった前年産を上回ったためである。

(3) 収穫量

らっかせいの収穫量は1万5,500tで、前年産に比べ3,200t（26%）増加した。

これは、作付面積が前年産に比べ減少したものの、10a当たり収量が前年産を上回ったためである。

図8 らっかせいの作付面積及び収穫量の推移

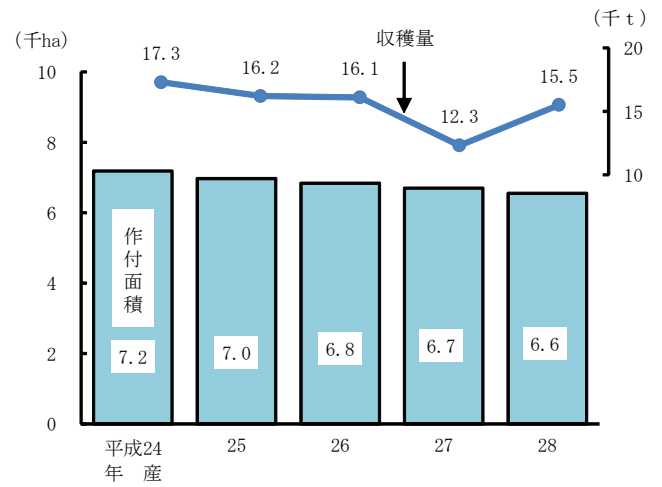


図9 平成28年産らっかせいの都道府県別収穫量及び割合

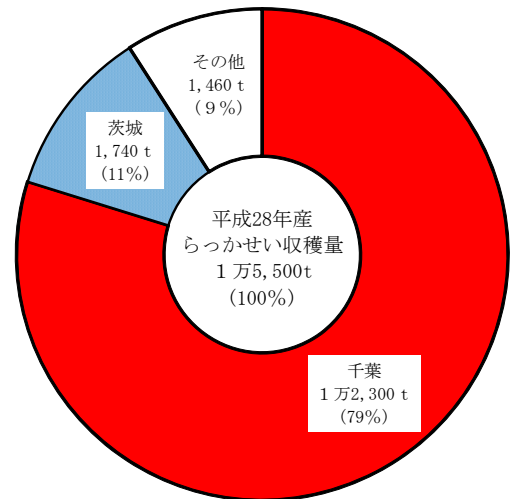


表4 平成28年産らっかせい（乾燥子実）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較						(参考)	
				作付面積		10a 当たり 収量	収穫量		10a当たり 平均収量 対	10a当たり 平均収量	
				対差	対比	対比	対差	対比			
全国	6,550	237	15,500	△150	98	129	3,200	126	nc	…	
うち茨城	587	297	1,740	△36	94	122	230	115	103	287	
千葉	5,170	238	12,300	△70	99	130	2,710	128	98	242	

【統計表】

統計表一覧

	ページ
1 平成28年産大豆（乾燥子実）の作付面積、10 a 当たり収量及び 収穫量 -----	8
2 平成28年産小豆（乾燥子実）の作付面積、10 a 当たり収量及び 収穫量 -----	9
3 平成28年産いんげん（乾燥子実）の作付面積、10 a 当たり収量 及び収穫量 -----	9
4 平成28年産らっかせい（乾燥子実）の作付面積、10 a 当たり収 量及び収穫量 -----	9

利用上の注意

- 1 統計数値については、次の方法によって四捨五入しており、合計値と内訳の計
が一致しない場合がある。

原 数		6 桁 (10万)	5 桁 (万)	4 桁 (1,000)	3 桁以下 (100)
四捨五入する桁数（下から）		2 桁		1 桁	四捨五入しない
例	四捨五入する前（原数）	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した数値（統計数値）	123,500	12,300	1,230	123

- 2 表中に用いた記号は次のとおりである。
「0」：単位に満たないもの（例：0.4 t → 0 t）
「…」：事実不詳又は調査を欠くもの
「△」：負数又は減少したもの
「nc」：計算不能
- 3 この統計表に掲載された数値を他に転載する場合は、「平成28年産大豆、小豆、
いんげん及びらっかせい（乾燥子実）の収穫量」（農林水産省）による旨を記載
してください。

1 平成28年産大豆（乾燥子実）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

全国農業地域 ・ 都道府県	作付面積	10 a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較					(参考)	
				作付面積		10 a 当たり 収量	収穫量		10 a 当たり 平均収量 対比	10 a 当たり 平均収量
				対差	対比	対比	対差	対比		
ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
全 国 (全国農業地域)	150,000	157	235,500	8,000	106	92	△ 7,600	97	91	173
北海道	40,200	205	82,400	6,300	119	81	△ 3,500	96	86	239
都 府 県	109,900	139	153,100	1,800	102	96	△ 4,100	97	93	149
東 北	35,900	151	54,300	1,300	104	96	△ 300	99	107	141
北 陸	13,400	166	22,200	100	101	83	△ 4,500	83	106	157
関 東・東 山	10,700	132	14,100	100	101	97	△ 300	98	90	146
東 海	12,200	103	12,600	0	100	103	400	103	88	117
近 畿	9,840	136	13,400	0	100	102	300	102	99	137
中 国	4,890	102	4,990	△ 110	98	96	△ 300	94	83	123
四 国	588	97	573	△ 11	98	110	48	109	76	127
九 州	22,200	140	31,000	300	101	101	600	102	75	186
沖 縄	1	34	0	0	100	46	△ 1	0	106	32
(都道府県)										
北海道	40,200	205	82,400	6,300	119	81	△ 3,500	96	86	239
青 森	4,810	150	7,220	310	107	93	△ 70	99	111	135
岩 手	4,550	132	6,010	290	107	86	△ 510	92	109	121
宮 城	11,300	163	18,400	200	102	101	500	103	97	168
秋 田	8,480	150	12,700	580	107	90	△ 400	97	121	124
山 形	5,150	152	7,830	10	100	103	270	104	114	133
福 島	1,660	129	2,140	△ 60	97	101	△ 60	97	98	131
茨 城	3,730	102	3,800	△ 30	99	90	△ 450	89	76	134
栃 木	2,680	157	4,210	10	100	95	△ 220	95	92	170
群 馬	301	125	376	△ 22	93	115	24	107	89	141
埼 玉	705	99	698	40	106	109	93	115	93	107
千 葉	876	103	902	41	105	96	9	101	84	123
東 京	4	124	5	0	100	94	0	100	102	122
神 奈 川	39	162	63	△ 1	98	92	△ 8	89	95	170
新 潟	5,150	192	9,890	△ 110	98	99	△ 310	97	120	160
富 山	4,810	126	6,060	90	102	60	△ 3,900	61	78	162
石 川	1,680	147	2,470	100	106	79	△ 480	84	104	141
福 井	1,800	208	3,740	90	105	99	150	104	137	152
山 梨	220	149	328	△ 3	99	127	67	126	131	114
長 野	2,170	169	3,670	50	102	101	130	104	105	161
岐 阜	2,950	107	3,160	10	100	104	130	104	86	124
静 岡	284	115	327	△ 35	89	195	139	174	115	100
愛 知	4,510	116	5,230	40	101	94	△ 310	94	86	135
三 重	4,470	87	3,890	△ 20	100	113	430	112	91	96
滋 賀	6,680	152	10,200	140	102	103	520	105	101	151
京 都	324	117	379	△ 35	90	90	△ 88	81	106	110
大 阪	16	112	18	1	107	102	1	106	88	127
兵 庫	2,630	98	2,580	△ 100	96	100	△ 100	96	94	104
奈 良	158	120	190	△ 8	95	92	△ 26	88	85	141
和 歌 山	29	96	28	△ 1	97	91	△ 4	88	86	112
鳥 取	715	132	944	1	100	90	△ 106	90	90	146
島 根	873	121	1,060	△ 80	92	116	69	107	98	123
岡 山	1,820	79	1,440	△ 20	99	75	△ 510	74	65	121
広 島	605	105	635	△ 52	92	117	44	107	92	114
山 口	882	103	908	43	105	123	203	129	91	113
徳 島	52	51	27	△ 13	80	71	△ 20	57	62	82
香 川	83	89	74	△ 19	81	90	△ 27	73	86	104
愛 媛	364	115	419	36	111	111	78	123	78	148
高 知	89	60	53	△ 15	86	171	17	147	67	90
福 岡	8,430	144	12,100	0	100	104	500	104	77	187
佐 賀	8,370	148	12,400	△ 160	98	92	△ 1,300	91	70	211
長 崎	438	119	521	△ 28	94	151	153	142	95	125
熊 本	2,680	149	3,990	590	128	120	1,400	154	85	176
大 分	1,720	86	1,480	△ 50	97	91	△ 180	89	79	109
宮 崎	261	79	206	7	103	81	△ 40	84	59	133
鹿 児 島	355	82	291	14	104	112	42	117	64	129
沖 縄	1	34	0	0	100	46	△ 1	0	106	32

注：1 「(参考) 10a 当たり平均収量対比」とは、10a 当たり平均収量(原則として直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値)に
 対する当年産の10a 当たり収量の比率である(以下の各統計表において同じ。)
 2 全国、都府県及び全国農業地域別(以下「地域別」という。)の10a 当たり平均収量は、各都府県の10a 当たり平均収量に当年産の作付面積
 を乗じて求めた平均収穫量を地域別に積み上げ、当年産の地域別作付面積で除して算出している。

2 平成28年産小豆（乾燥子実）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量	収 穫 量		10 a 当 たり 平 均 収 量 対 比	10 a 当 たり 平 均 収 量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
全 国	21,300 ^{ha}	138 ^{kg}	29,500 ^t	△ 6,000 ^{ha}	78 [%]	59 [%]	△ 34,200 ^t	46 [%]	nc	… ^{kg}	
う ち 北 海 道	16,200	167	27,100	△ 5,700	74	61	△ 32,400	46	69	242	
う ち 滋 京	51	69	35	2	104	79	△ 8	81	90	77	
う ち 賀 都	493	52	256	△ 28	95	65	△ 161	61	91	57	

3 平成28年産いんげん（乾燥子実）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作付面積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量	収 穫 量		10 a 当 たり 平 均 収 量 対 比	10 a 当 たり 平 均 収 量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
全 国	8,560 ^{ha}	66 ^{kg}	5,650 ^t	△ 1,640 ^{ha}	84 [%]	26 [%]	△ 19,900 ^t	22 [%]	nc	… ^{kg}	
う ち 北 海 道	7,940	69	5,480	△ 1,610	83	27	△ 19,300	22	37	187	
う ち 金 時	6,170	51	3,150	△ 90	99	21	△ 11,950	21	31	165	
う ち 手 亡	1,200	133	1,600	△ 1,520	44	43	△ 6,800	19	58	230	

注：「金時」、「手亡」とはいんげんの種類を示す。

4 平成28年産らっかせい（乾燥子実）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作付面積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量	収 穫 量		10 a 当 たり 平 均 収 量 対 比	10 a 当 たり 平 均 収 量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
全 国	6,550 ^{ha}	237 ^{kg}	15,500 ^t	△ 150 ^{ha}	98 [%]	129 [%]	3,200 ^t	126 [%]	nc	… ^{kg}	
う ち 茨 城	587	297	1,740	△ 36	94	122	230	115	103	287	
う ち 千 葉	5,170	238	12,300	△ 70	99	130	2,710	128	98	242	

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の収穫量調査及び特定作物統計調査の収穫量調査として実施したものであり、豆類の生産に関する実態を明らかにすることにより、食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料、大豆、小豆、いんげん及びらっかせいに関する生産振興に資する各種事業(強い農業づくり交付金等)の推進のための資料、農業災害補償法(昭和22年法律第185号)に基づく共済事業の適切な運営のための資料、小豆、いんげん及びらっかせいの関税割当数量の算定のための資料、経営所得安定対策(畑作物の直接支払交付金)の交付単価の算定等のための資料とすることを目的としている。

2 調査の対象

(1) 調査の範囲

ア 大豆
全国

イ 小豆、いんげん及びらっかせい

調査品目ごとに全国調査を3年ごとに実施しており(直近では平成27年産)、その中間年の当たる本年産にあつては、調査年の前年の作付面積が全国の作付面積のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県及び畑作物共済事業を実施する道府県を調査の範囲(主産県)としている。

(2) 調査対象者の選定

ア 関係団体調査(全数調査)

調査対象作物を取り扱っている全ての農協等の関係団体とした。

イ 標本経営体調査(標本調査)

2015年農林業センサスにおいて、大豆、小豆、その他豆類を販売目的で作付けした農林業経営体から無作為に抽出(母集団名簿を作付面積順に並べ替えを行い、設定した面積規模別の標本の大きさに応じて等間隔に抽出する方法(系統抽出法)により抽出)をした。

(3) 調査対象者数

	関係団体調査			標本経営体調査				
	団体数 ①	有効 回収数 ②	有効 回収率 ③=②/①	母集団 の大きさ ④	標本の 大きさ ⑤	抽出率 ⑥=⑤/④	有効 回収数 ⑦	有効 回収率 ⑧=⑦/⑤
大豆	634	599	94.5	70,909	2,130	3.0	1,264	59.3
小豆	111	107	96.4	23,867	283	1.2	167	59.0
いんげん	64	62	96.9	19,720	87	0.4	59	67.8
らっかせい	7	6	85.7	20,712	379	1.8	175	46.2

注：有効回収数とは、集計に用いた標本経営体又は「関係団体の数であり、回収はされたが、当年産において作付けがなかった標本経営体等は含まれない。

3 調査事項

(1) 関係団体調査

作付面積及び集荷量

(2) 標本経営体調査

作付面積、収穫量、出荷量及び自家消費の量

4 調査期日

収穫期（主たる収穫期間は、10月～11月）

5 調査・集計方法

関係団体に対する往復郵送調査又はオンライン調査及び標本経営体に対する往復郵送調査により行った。

集計は、都道府県別に関係団体調査及び標本経営体調査結果における作付面積及び収穫量を基に算出した10a当たり収量（関係団体調査にあつては、標本経営体調査結果による自家消費等の量を勘案して算出）を必要に応じて職員又は統計調査員による巡回及び職員による情報収集の結果により補完し、これに作付面積を乗じて算出している。なお、調査結果により算出した各都道府県の10a当たり収量は、調査対象作物ごとに関係団体を取り扱う数量の割合がおおむね80%以上の場合は関係団体調査結果を、おおむね80%未満の場合は標本経営体調査結果を採用している。

なお、収穫量（小豆、いんげん及びらっかせい）の全国値は、次の式により算出した主産県以外の各都道府県の収穫量を合計した数値と主産県収穫量との合計である。

$$\begin{array}{l} \text{主産県以外の} \\ \text{各都道府県の} \\ \text{収穫量} \end{array} = \begin{array}{l} \text{全国調査を行った} \\ \text{平成27年産における当該都道府県の} \\ \text{10a当たり収量} \end{array} \times \begin{array}{l} \text{10a当たり収量} \\ \text{の比率(x)} \end{array} \times \begin{array}{l} \text{当該都道府県の} \\ \text{当該年産の} \\ \text{作付面積} \end{array}$$

注：x＝主産県の10a当たり収量÷全国調査を行った平成27年産における主産県の10a当たり収量

7 目標精度

本調査は、目標精度は設定していない。

8 用語の解説

- (1) 「乾燥子実」とは、豆類で食用を目的に未成熟（完熟期以前）で収穫されるもの（えだまめ、さやいんげん等）を除いたものをいう。
また、らっかせいはさやつきのものである。
- (2) 「作付面積」とは、は種又は植付けしてからおおむね1年以内に収穫され、複数年にわたる収穫ができない非永年性作物を作付けしている面積をいう。
- (3) 「収穫量」とは、収穫し、収納（保存又は販売できる状態にして収納舎等に入れることをいう。）がされた一定の基準（品質・規格）以上のものの量をいう。
- (4) 「10a当たり収量」とは、実際に収穫された10a当たりの収穫量をいう。
- (5) 「10a当たり平均収量」とは、原則として直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値をいう。
- (6) 「10a当たり平均収量対比」とは、10a当たり平均収量に対する10a当たり収量の比率をいう。

9 全国農業地域の表章区分

全国農業地域名	所属都道府県名
北海道	北海道
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
北陸	新潟、富山、石川、福井
関東・東山	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野
東海	岐阜、静岡、愛知、三重
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口
四国	徳島、香川、愛媛、高知
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島
沖縄	沖縄

10 その他

この資料の数値は、概数値である。確定した詳細な数値は、ホームページに掲載（平成29年4月予定）するとともに、その後発刊する『平成28年産作物統計』に掲載する。

なお、作付面積に係る数値は確定値であり、詳細な数値はホームページに掲載（平成29年2月予定）するとともに、その後発行する『平成28年耕地及び作付面積統計』に掲載する。

また、公表した数値の正誤情報は、ホームページでお知らせする。

【ホームページ掲載案内】

- 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報で御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果の分野別分類は「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類は「いも・雑穀・豆」に分類しています。

【関連リンク】

農林水産施策関係ページ：農林水産省>組織別から探す>大臣官房

<http://www.maff.go.jp/j/kanbo/>

農業生産振興関係ページ：農林水産省>組織別から探す>政策統括官

http://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/

お問合せ先

◎本統計調査結果について
 農林水産省 大臣官房統計部
 生産流通消費統計課 普通作物統計班
 電話：(代表) 03-3502-8111 内線3682
 (直通) 03-3502-5687
 F A X : 03-5511-8771

◎農林水産統計全般について
 農林水産省 大臣官房統計部
 統計企画管理官 広報普及班
 電話：(代表) 03-3502-8111 内線3589
 (直通) 03-6744-2037
 F A X : 03-3501-9644



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<http://www.e-stat.go.jp/>